

衝撃の話題を呼んだ **2大傑作** アンコールロードショー!

**BOW**  
 パウ・シリーズ  
 NO1 / NO2  
 フランス映画社提供

**恐るべき子供たち**

*les enfants terribles*

製作・監督  
 ジャン・ピエール＝メルヴィル  
 原作・台詞  
 ジャン・コクトー  
 撮影アンリ・ドカエ  
 ニコール・ステファヌ  
 エドワール・テルミット  
 原作＝旺文社文庫版  
 フランス映画



死をかけて  
 愛しい、傷つきあう  
 美しい姉と弟の  
 恐るべき遊び——  
 ● 詩人コクトーの代表作  
 完全映画化!

監督  
 ジャン・ヴィゴ  
 撮影ボリス・カウフマン  
 音楽モーリス・ジョベール  
 ジャン・ダステ  
 ルイ・ルフェーブル ● フランス映画

新学期 **同時上映**  
**操行ゼロ**

ZERO DE CONDUITE



都営地下鉄6号線〈千石駅前〉  
 (銀座日比谷から12分 ● 新宿から20分)



'77年1月

**8日** ± **30日** 日

**三百人劇場** (944) 5451

# 衝撃の話題作に絶賛の反響

●この作品が一般公開されることは映画ファンにとって夢のような出来事といえよう。こうして書きながらも胸の動悸を禁じ得ない。

かわなかのぶひろ氏 (映像ジャーナル7/26号)

●映画の古典というより映画の「神話」といっていい完璧な作品。

小林竜夫氏

(スポニチ8/13キネマ週報)

●この作品のどの部分を取っても、詩という血が流れる。

山口昌男氏

「映像の世界の文化英雄たち」(『中央公論』4月号)

●すでにヴィゴが43年前にかかる作品を手がけていたことに感激。

淀川長治氏

「さいならさいなら先生近況日誌」(『スクリーン』11月号)

●…小説『恐るべき子供たち』は、子供の世界を子供の論理で一貫することによって成功した、稀有な小説の例であろう。…映画は原作にきわめて忠実で、

コクトーのナレーションを聞いていると、私はかつて何度も読んだ小説を、もう一度読んでいくかのような気がしたほどだった。…堂々たる演技を見せたのはニコール・ステファーンで、

フランソワ・トリュフォーは「食欲そうな昏」と評しているが、まったく食欲な、獲物を手に入れんとする毒蜘蛛のような、ひとかどの悲劇女優ぶりは圧巻だった。ラスト・シーンでピストルをつかんで立ちあがったとき、彼女は急に丈が高くなったようにも見えた。…

澁澤龍彦氏

映画「恐るべき子供たち」を見て (朝日新聞8/28付) より



## 恐るべき子供たち

les enfants terribles

## 新学期 操行ゼロ

ZERO DE CONDUITE

監督・脚本・台詞・編集……………ジャン・ヴィゴ  
 撮影……………ボリス・カウフマン  
 音楽……………モーリス・ジョベール  
 コサ……………ルイ・ルフェブル  
 コラン……………ジル・ペール・ブリュショ  
 ブリュエル……………ココ・ゴルステン  
 タバール……………ジェラルド・ド・ベダリュ  
 ユゲ……………ジャン・ダステ  
 校長……………デルファン/フランス映画 [45分]

製作・監督……………ジャン・ピエール・メルヴィル  
 原作・台詞……………ジャン・コクトー  
 撮影……………アンリ・ドカエ  
 音楽……………J・S・バッハ/ヴィヴァルディ  
 エリザベート……………ニコール・ステファーン  
 ポール……………エドワール・デルミット  
 ダルジュロス/アガート……………ルネ・コジマ  
 ジェラル……………ジャック・ベルナル  
 声(ナレーション) ジャン・コクトー/フランス映画 [1時間45分]

原典的な作品となった。オルマンの「カッコーの巣の上で」の舞うシーンは、映画史上、最も美しく最も詩情にとむ場面として有名だが、寄宿舎の少年たちの反乱を描いて、トリュフォーの「大人は判ってくれない」、アンダーソンの「If もしも……」、フ



●不滅の光芒を放つ二大傑作あまりにも早く世に出て、その光と輝きが製作当時の世間をうけいれられにくい、逆に、年月のうつりかわりのなかでますます強い光芒を放ち始める映画が稀に存在する。コクトーとメルヴィルの「恐るべき子供たち」とヴィゴの「新学期・操行ゼロ」は、そのような真の傑作として1976年夏に登場して衝撃を与え、ご熱望にこたえてアンコールロードショーに迎えられることになった。「恐るべき子供たち」は詩人コクトーの代表作の完全映画化。その晩は雪だった、と語り始めるコクトー自身自身の声によるナレーションが、エリザベートとポールの、死を死と思わぬ恐るべき姉弟愛の世界へ観客を誘う。パッパとヴィヴァルディの協奏曲を背景に、アンリ・ドカエのカメラが黒白撮影の美しさを極限に挑み、メルヴィルの演出は、終始一貫、古典劇のように格調高い。1975年にはじまったこの作品の世界的再公開は、現在は、ニューヨーク、東京に次いで、現在は、ロンドンでも大ヒット中である。「新学期・操行ゼロ」は、映画好きなら誰一人知らぬことのない天才ジャン・ヴィゴ監督の傑作。羽毛が雪のように舞うシーンは、映画史上、最も美しく最も詩情にとむ場面として有名だが、寄宿舎の少年たちの反乱を描いて、トリュフォーの「大人は判ってくれない」、アンダーソンの「If もしも……」、フ



《バウ・シリーズ》アンコールロードショー

77年1月8日(土) ⇒ 30日(日) 三百人劇場

	平日			日祝		
操行ゼロ	1:00	3:50	6:40	12:00	2:50	5:40
恐るべき	1:50	4:40	7:30	12:50	3:40	6:30

特別鑑賞券800円絶賛発売中!

都内各プレイガイド、劇場窓口にて TEL(944)5451

料金 ● 一般1,000円・学生900円

団体鑑賞のお問合せはメイジャー(541)2508またはフランス映画社(586)6401まで